

えびの市教育研究センター

I	研究主題と副題	8-1
II	主題設定の理由	8-1
III	研究の目標	8-1
IV	研究の仮説	8-2
V	研究の構想	8-2
VI	研究の内容	8-2
1	理論研究班の取組	8-2
(1)	本研究における基本的な考え方	8-2
(2)	読解力向上のための学習指導法	8-3
ア	言語活動の充実と読解力向上	8-3
イ	問題解決的な学習指導法の工夫と読解力向上	8-3
(3)	文学的文章の解釈に関する系統表	8-4
2	授業実践班の研究	8-5
(1)	文学的文章教材の検証授業	8-5
ア	検証授業①(小学校第3学年国語科)	8-5
(ア)	学習計画	8-5
(イ)	授業の考察	8-6
イ	検証授業②(中学校第1学年国語科)	8-7
(ア)	学習計画	8-7
(イ)	授業の考察	8-8
(2)	算数科の検証授業	8-9
ア	検証授業(小学校第1学年算数科)	8-9
(ア)	学習計画	8-9
(イ)	授業の考察	8-9
VII	成果と課題	8-10
1	研究の成果	8-10
2	今後の課題	8-10
○	引用・参考文献	8-10
○	研究同人	8-10

I 研究主題と副題

読解力を育成する学習指導の工夫・改善 ～国語科を中心とした問題解決的な学習指導法の工夫を通して～

II 主題設定の理由

- 2003年7月に OECD が実施した「生徒の学習到達度調査」(PISA 調査)では、「読解力」の得点が OECD 平均程度まで低下している状況にあるなど、大きな課題が示された。これは2006年の調査でも同様の傾向が見られた。「読解力」を高めるためには、各教科及び総合的な学習の時間等の学校の教育活動全体を通じ、「考える力」を中核として、「読む力」「書く力」を総合的に高めていくことが重要である。そのため、平成20年3月に告示された学習指導要領では、学力の重要な要素の1つに「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力」を位置付け、各教科等における言語活動の充実を求めている。このことは、言語活動によって思考力・判断力・表現力の育成を図ることを意味しており、言語活動を充実させることは、「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」「表現・コミュニケーション」という読解力の育成につながる。
- えびの市は、平成21年度から小中一貫教育を全小中学校でスタートさせた。えびの市の小中一貫教育では、「一貫性・系統性」の継続的な指導を実施することや、「えびの学」「英会話科」など、えびの市独自の教育を実践することで、徹底した学力の向上と地域に貢献する人材の育成を目指している。

平成23年度みやざき小中学校学力・意識調査におけるえびの市の児童生徒の実態として、基礎的・基本的な知識・技能については、ある程度定着しているが、知識・技能等を実生活の様々な場面において活用する力など「活用力」を問う問題の平均正答率は低い。また、「記述式」の問題に対しては無回答率が高い。その原因として「問題の意味や意図が理解できない」「知識・技能を活用して問題を解くことができない」「自分の考えをうまく表現できない」などの問題点が明らかとなった。このことから、「問題の意味や意図を理解すること」「知識・技能を活用すること」「問題に対し、自分の考えをまとめ、分かりやすく説明すること」など、読解力の向上が重要な課題として挙げられる。
- えびの市教育研究センターでは、昨年度より小中一貫教育における読解力の向上に関する研究に取り組んできた。昨年度は、領域を国語科の説明的文章教材に絞り、言語活動の充実による学習指導法の工夫について研究してきた。

本年度は、えびの市の児童生徒の実態を踏まえ、昨年度の研究を発展させ、研究領域を国語科の文学的文章教材や各教科等へと広げ、読解力の向上について、小中一貫した学習指導法の研究を進めていくこととした。

理論研究班では、国語科の文学的文章教材や他教科の指導において、読解力を高めるための問題解決的な学習の工夫や言語活動の充実などの学習指導法について研究し、小中一貫した読解力育成のための授業モデルを設定する。また、文学的文章教材の系統表を作成することで、小中9年間を見通した読解力の向上が図られるようにする。

実践研究班では、国語科の文学的文章教材や他教科の指導において、理論研究班の研究に基づいた授業改善の視点を設け、その視点に基づいた具体的指導の在り方を研究する。

このような研究が、えびの市全体の児童生徒の読解力を高めるとともに、「生きる力」や「確かな学力」につながると考え、本主題及び副題を設定した。

III 研究の目標

- えびの市全体の児童生徒の読解力の向上のために、国語科を中心とした各教科等における小中一貫した学習指導法の在り方を究明する。

IV 研究の仮説

- 小中9年間の学習の系統性を明確にするとともに、読解力を育成するための学習指導法の工夫を図れば、えびの市全体で小中一貫した読解力向上の指導に生かすことができるであろう。
- 国語科の文学的文章教材や各教科等において、問題解決的な学習指導法の工夫及び言語活動の充実を図れば、読解力を身に付け、自ら学び、課題解決できる児童生徒を育成することができるであろう。

V 研究の構想



VI 研究の内容

1 理論研究班の取組

(1) 本研究における基本的な考え方

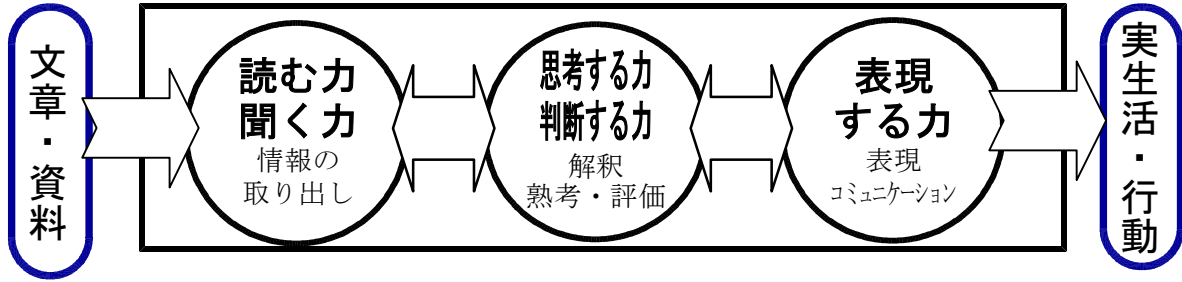
本研究センターでは、国語科を中心として各教科において問題解決的な学習を展開するとともに、言語活動を充実させることによって、読解力の育成を図ることとした。

本研究センターにおける「読解力」及び「読解のプロセス」を次のように定義している。

【読解力】

自ら目標を達成し、自らの知識と可能性を発揮させ、効果的に社会参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する力

【読解のプロセス】



(2) 読解力向上のための学習指導法

ア 言語活動の充実と読解力向上

言語活動とは、言語による様々な活動である。学習の大部分は、言語による理解、思考、表現によって行われていることを考えれば、言語活動を充実させることは読解力の向上に必要な不可欠であると言える。

そこで、本研究センターでは言語活動を充実させるために二つの手立てをとることにした。一つは、指導計画に単元を通した言語活動を設定すること、もう一つは、学習指導過程に「自力解決」「集団解決」といった練り合いの場を設定することである。

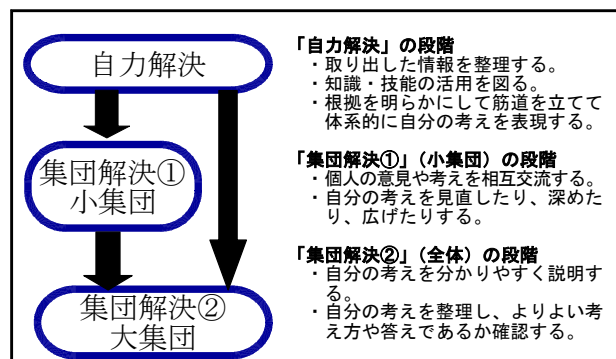
単元を通した言語活動を設定することは、児童生徒が目的意識をもち、課題を解決していくことにつながる。そこで、「具体的な言語活動」と「言語活動を通して学習する内容」を設定し、言語活動を通して計画的に指導事項を身に付けさせるとともに、読解力の向上につながるようにした。特に国語科では、昨年度の研究内容を継続させ、単元の展開で教材文を用いて計画的に指導事項を身に付けさせるとともに、単元末には教材文の読み取りで身に付けた力を他の資料等を用いて生かせるような言語活動を工夫した。

【単元を通した言語活動の設定】	
具体的な言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の続きを書き、友達と読み合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の続きを書くという目的をもった、教材「サーカスのライオン」を読み取る活動 ・ 教材文から読み取ったことをもとに、自分で想像した物語の続きを書く活動
言語活動を通して学習する内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人物の気持ちを読み取る段階 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の行動や会話などによる気持ちの読み取り ・ あらすじの作成 ・ 国語辞典を使った意味調べ ○ 物語の続きを書くために、教材文の読み取りを活用する段階 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「はじめ—中—終わり」の文章構成を意識した物語作り

※小学校第3学年国語科単元「サーカスのライオン」の例

練り合いの場を設定することは、意図的に児童生徒を「読解のプロセス」に沿って学習させることにつながる。「自力解決」の段階で、取り出した情報を整理し、理由や根拠を明らかにして筋道立てて体系的に考えさせる。そして「集団解決」の段階で、自力解決での個人の考えを集団で共有し、比較・検討を行うことによって、考えを深めたり広げたりできるようにする。このように「読解のプロセス」に基づいて練り合いの場を設定した授業を構築していくことは、読解力の向上につながるのである。

【練り合いの場の設定】



- 「自力解決」の段階
- ・ 取り出した情報を整理する。
 - ・ 知識・技能の活用を図る。
 - ・ 根拠を明らかにして筋道を立てて体系的に自分の考えを表現する。
- 「集団解決①」(小集団)の段階
- ・ 個人の意見や考えを相互交流する。
 - ・ 自分の考えを見直したり、深めたり、広げたりする。
- 「集団解決②」(全体)の段階
- ・ 自分の考えを分かりやすく説明する。
 - ・ 自分の考えを整理し、よりよい考え方や答えであるか確認する。

イ 問題解決的な学習指導法の工夫と読解力向上

問題解決的な学習は、自ら課題を見い出すとともに、見出した課題に向けて自力解決を図る学習であるため、読解力の育成に効果的な学習指導法である。そこで、「読解のプロセス」である「情報の取り出し」「解釈」「熟考・評価」「表現・コミュニケーション」を考慮し、単

元と1単位時間の各段階を「つかむ」「見通す」「調べる・深める」「まとめる」として、問題解決的な学習過程を構成した。さらに、「調べる・深める段階」において「自力解決」と「集団解決」を位置付け、練り合いの場を設定することにより、読解力の育成につながるようにした。

【読解力向上のための授業モデル】

読解のプロセス	必要な力	問題解決的な学習過程	「読解力」の育成のための指導上の留意点
情報の取り出し	読む力 聞く力	「つかむ」段階	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の内容や状況を正しくつかませる。 ○ これまでの学習と関連付けて読み取らせる。 ○ テキストを読み取る場の設定をする。
解釈	思考する力 判断する力	「見通す」段階	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決に向けて、見通しをもたせる。 ○ 学習問題や答えに対する予想を書かせる。 ○ 分かっていることや求めていることを明確にさせる。 ○ 仮説を立てさせる。
熟考・評価		「調べる・深める」段階	<p>自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを書く活動を取り入れる。 ○ 根拠を明らかにして、筋道を立てて体系的に自分の考えを表現できるようにする。 ○ 支援の必要な児童生徒に対して、ヒントカード等を用意し、活用させる。 ○ 新しい方法やもっと違ったやり方を考えさせる。 <p>集団解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えと他の考え方と比べて見直させる。 ○ 集団で練り合い、考えを深めたり広げたりできるようにする。 ○ 自分の考えを整理し、よりよい考え方や答えであるか確かめさせる。
表現・コミュニケーション	表現する力	「まとめる」段階	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめや感想を書く時間を確保する。 ○ まとめを自分の言葉で書くことができるようにする。 ○ 自分の考えと他者の考えを比べるなど、多様な考えについて気付いたことを書かせる。 ○ 学習した内容から新たな課題に気付かせる。

(3) 文学的文章の解釈に関する系統表

小中一貫教育では、小学校と中学校が連携し、9年間で児童生徒を育成するという視点が大切である。そこで、昨年度本研究センターで作成した「説明的文章の解釈に関する系統表」を参考に「文学的文章の解釈に関する系統表」を作成し、中学校第3学年段階というゴールを意識して指導できるようにした。系統表の「重点指導事項」には、学習指導要領解説「国語編」から各学年の重点指導事項を端的にまとめ、指導の系統性が詳しく分かるように工夫した。

【文学的文章の解釈に関する系統表の一部】

	「読むこと」の目標	文学的文章の解釈	重点的指導事項
小学校低学年	書かれている事柄の 順序 や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	<p>【様子を豊かに想像しながら読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の展開に即して把握すること <ul style="list-style-type: none"> ・ 各場面の様子の変化 ・ 中心となる登場人物の行動の変化
小学校中学年	目的に応じ、内容の 中心 をとらえたり 段落相互の関係 を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	<p>【物語の場面の移り変わりに注意しながら想像して読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 押さえること <ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物の性格や境遇、状況、登場人物同士の関係、物語上の役割 ・ 場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ち

2 実践研究班の取組

(1) 文学的文章教材の検証授業

理論研究班の研究に基づいて、読解力向上の取組、言語活動の位置付け、授業改善の視点を設定し、小学校第3学年と中学校第1学年において、国語科文学的文章教材の検証授業を行った。

ア 検証授業①（小学校第3学年国語科）

(7) 学習計画

【単元名】「人物の気持ちを考えながら読もう」[教材：サーカスのライオン]		
【読むこと目標】 ○ 場面ごとに、人物の気持ちやその変化をとらえるとともに、読み取ったことをもとに、物語の続きを想像することができる。		
【読解力向上の取組】		
読解のプロセス	「読解力」の育成に必要な学習活動	
	単元の前半（基礎・基本）	単元の後半（活用）
情報の取り出し	○ じんざの気持ちが分かるところにサイドラインを引く。	○ 「じんざ」「ライオン使いのおじさん」「男の子」について必要な情報を集める。
解釈	○ じんざの気持ちが分かる言葉からじんざの気持ちを想像して書く。	○ どのようなお話にするか、大まかなあらすじを考える。
熟考・評価	○ グループでの発表や全員での発表を通して自分の考えと他の考えとを比べて考える。	○ 「はじめ—中—終わり」を意識した文章構成図を作成する。
表現 コミュニケーション	○ 場面ごとに読み取った情報をもとにあらすじをまとめる。	○ あらすじや文章構成図に従って物語を作成する。
【指導計画】（12時間）		
	主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援
つかむ 見通す 調べる 深める まとめる	1 学習のゴールの姿を知る。（1時間） 学習課題 物語をしっかりと読み取って物語の続きを書こう。	目的・課題をもたせる 「物語の続きを書く」という課題達成のために、教材文を読み取るという目的をもたせる。 教材文で読み取る力を身に付けさせる 教材文でじんざの様子や気持ちが表されている言葉にサイドラインを引き、その言葉からじんざの気持ちを考えさせるとともに、それぞれの場面について簡単なあらすじをまとめる力を身に付けさせる。 身に付けた読み取る力を生かしてまとめさせる 教材文の読み取りを生かして、物語の続きを書かせ、読み取る力を確かにする。
	2 学習計画を立てる。（1時間）	
	3 場面ごとにじんざの気持ちの変化をとらえる。（5時間）（本時4/5）	
	4 誰のを中心に書くかを決め、物語の続きを書く。（3時間）	
	5 書いたものを友だちと読み合い、感想を伝え合う。（1時間）	
	6 単元末の評価テストを行う。（1時間）	
【本時の目標】○ 第4場面のじんざの行動から、じんざの気持ちを想像することができる。		
	主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援
つかむ 見通す 調べる 深める まとめる	1 本時の学習について話し合う。 学習問題 じんざはどんな気持ちで男の子を助けたのだろうか。	視点や見通しをもたせる ○ じんざの気持ちが分かる言葉を見つけ、サイドラインを引き、その横にじんざの気持ちを書くことを確認する。 読み取る力を深める ○ 自力解決の時間をとった後、集団解決の場としてグループでの話し合い・全員での話し合いを行う。 ○ 集団解決の場では、叙述に即した根拠をあげながら述べさせたり、友だちの意見に対する自分の意見を述べさせたりする。 読み取る力を確かにする ○ 「誰」が「どんな気持ち」で「どんな行動をした」のか、あらすじをまとめることで、読み取る力を深めさせる。
	2 学習の進め方について確認する。	
	3 第4場面のじんざの気持ちを調べる。	
	4 調べたことをもとに話し合う。	
	5 第4場面のあらすじをまとめる。	
	6 本時の学習を振り返る。	

(イ) 授業の考察

a 文学的文章教材における言語活動の充実

導入段階において、単元のゴールとして「物語の続きを書く」ことを知らせた。そのために教材文を読み取る必要があるという目的意識をもたせ、計画的に学習を進めることができた。



b 読み取る力を付けさせるための指導法の工夫

(a) 児童に読み取る視点や見通しをもたせる工夫

児童と一緒に作成した「学習計画表」を確認させながら学習を進めることで、児童が主体的に活動することができていた。また、「一人調べ→グループで発表→全員でまとめる→あらすじを書く」という本時の流れを示すことで、児童はよりスムーズに活動に取り組むことができた。

【一人調べを行う児童】



(b) 読み取りを深めるための場の設定と工夫

一人調べで気付いたことを、まずはグループで発表し合い、自分と同じ意見、または違う意見であることを意識できていた。

(c) 身に付けた読み取る力を確かにする活動の工夫

ほとんどの児童が、読み取ったことをあらすじとして短い言葉でまとめることができた。

あらすじの評価は、以下の2つの観点で行った。

- ① 短い言葉でまとめられているか。 ② 大事な事柄（キーワード）を入れているか。

6月 (ゆうすげ村の小さな旅館)			10月 (サーカスのライオン)		
A	B	C	A	B	C
7	14	2	16	7	1

A : ①②ともできている。
 B : ①②のどちらかはできている。
 C : ①②ともできていない。

【児童の書いたあらすじ (例)】

じんざは男の子を助きたい気持ちから、火事の中にとびこんだ。男の子は助かったが、じんざは死んでしまった。

6月の文学的文章教材の学習の時に比べると、本単元ではずいぶんとあらすじをまとめることができるようになった。身に付けさせたい読み取る力を明確にし、継続的に指導してきた結果である。

イ 検証授業②（中学校第1学年国語科）

(7) 学習計画

【単元名】「主題をとらえよう」[教材：少年の日の思い出]													
【読むこと】の目標 ○ 作品の構成や展開、登場人物の心情の移り変わりを読み取り、主題をとらえることができる。													
【読解力向上の取組】													
読解のプロセス	「読解力」の育成に必要な学習活動												
情報の取り出し	○ 「僕」のチョウに対する思いが分かるところを探し、ワークシートに書き出す。 ○ 国語辞典で重要な語句の意味を調べる。												
解釈	○ 登場人物の考え方や性格の違いについて考える。 ○ 「僕」の「エーミール」に対する心情を、文章表現からとらえる。												
熟考・評価	○ 登場人物に対する自分の考えを文章に書いたり、発表したりする。 ○ 作品の主題について考える。												
表現 コミュニケーション	○ 作品の主題をとらえ、鑑賞文を書く。												
【指導計画】（5時間）													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主な学習活動</th> <th>言語活動の充実及び教師の支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つかむ 見通す 調べる 深める まとめる</td> <td> <p>目的・課題をもたせる 「鑑賞文を書く」という課題達成のために、教材文を読み取るという目的をもたせる。</p> <p>教材文で読み取る力を身に付けさせる 「僕」のチョウに対する思いや登場人物二人に関する表現等にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめさせる。</p> <p>身に付けた読み取る力を生かしてまとめさせる 作品の構成や展開、登場人物の心情を読み取り、主題をとらえた上で、鑑賞文を書かせ、お互いに読み味わわせることで、読み取る力を付けさせる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援	つかむ 見通す 調べる 深める まとめる	<p>目的・課題をもたせる 「鑑賞文を書く」という課題達成のために、教材文を読み取るという目的をもたせる。</p> <p>教材文で読み取る力を身に付けさせる 「僕」のチョウに対する思いや登場人物二人に関する表現等にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめさせる。</p> <p>身に付けた読み取る力を生かしてまとめさせる 作品の構成や展開、登場人物の心情を読み取り、主題をとらえた上で、鑑賞文を書かせ、お互いに読み味わわせることで、読み取る力を付けさせる。</p>								
主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援												
つかむ 見通す 調べる 深める まとめる	<p>目的・課題をもたせる 「鑑賞文を書く」という課題達成のために、教材文を読み取るという目的をもたせる。</p> <p>教材文で読み取る力を身に付けさせる 「僕」のチョウに対する思いや登場人物二人に関する表現等にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめさせる。</p> <p>身に付けた読み取る力を生かしてまとめさせる 作品の構成や展開、登場人物の心情を読み取り、主題をとらえた上で、鑑賞文を書かせ、お互いに読み味わわせることで、読み取る力を付けさせる。</p>												
【本時の目標】○ 「エーミール」の考え方や性格について読み取った上で、「僕」の考え方や性格について読み取ることができる。													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【指導過程】 主な学習活動</th> <th>言語活動の充実及び教師の支援</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>つかむ</td> <td>1 前時の復習をし、本時の問題を確認する。 学習問題 「エーミール」と「僕」の考え方や性格の違いについて考えよう。</td> </tr> <tr> <td>見通す</td> <td>2 学習の進め方について確認する。 視点や見通しをもたせる ○ 登場人物の考え方や性格が分かる箇所にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめることを確認させる。</td> </tr> <tr> <td>調べる</td> <td>3 登場人物の考えや性格を表現している箇所をとらえる。 読み取る力を深める ○ 自力解決の時間をとった後、集団解決の場として全員で話し合いを行い、二人についてどう思うかを考えさせる。</td> </tr> <tr> <td>深める</td> <td>4 「彼は非の打ちどころがない」という悪徳をもっていた」という表現について考える。 ○ 国語辞典で「非の打ちどころがない」「悪徳」という二つの語句の意味について調べさせ、「エーミール」の描写には「僕」の複雑な感情が含まれることに気付かせる。</td> </tr> <tr> <td>まとめる</td> <td>5 本時の学習を振り返る。 読み取る力を確かにする ○ 登場人物の人物像について振り返らせ、読み取る力を深めさせる。</td> </tr> </tbody> </table>	【指導過程】 主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援	つかむ	1 前時の復習をし、本時の問題を確認する。 学習問題 「エーミール」と「僕」の考え方や性格の違いについて考えよう。	見通す	2 学習の進め方について確認する。 視点や見通しをもたせる ○ 登場人物の考え方や性格が分かる箇所にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめることを確認させる。	調べる	3 登場人物の考えや性格を表現している箇所をとらえる。 読み取る力を深める ○ 自力解決の時間をとった後、集団解決の場として全員で話し合いを行い、二人についてどう思うかを考えさせる。	深める	4 「彼は非の打ちどころがない」という悪徳をもっていた」という表現について考える。 ○ 国語辞典で「非の打ちどころがない」「悪徳」という二つの語句の意味について調べさせ、「エーミール」の描写には「僕」の複雑な感情が含まれることに気付かせる。	まとめる	5 本時の学習を振り返る。 読み取る力を確かにする ○ 登場人物の人物像について振り返らせ、読み取る力を深めさせる。
【指導過程】 主な学習活動	言語活動の充実及び教師の支援												
つかむ	1 前時の復習をし、本時の問題を確認する。 学習問題 「エーミール」と「僕」の考え方や性格の違いについて考えよう。												
見通す	2 学習の進め方について確認する。 視点や見通しをもたせる ○ 登場人物の考え方や性格が分かる箇所にサイドラインを引き、そこから読み取ったことをワークシートにまとめることを確認させる。												
調べる	3 登場人物の考えや性格を表現している箇所をとらえる。 読み取る力を深める ○ 自力解決の時間をとった後、集団解決の場として全員で話し合いを行い、二人についてどう思うかを考えさせる。												
深める	4 「彼は非の打ちどころがない」という悪徳をもっていた」という表現について考える。 ○ 国語辞典で「非の打ちどころがない」「悪徳」という二つの語句の意味について調べさせ、「エーミール」の描写には「僕」の複雑な感情が含まれることに気付かせる。												
まとめる	5 本時の学習を振り返る。 読み取る力を確かにする ○ 登場人物の人物像について振り返らせ、読み取る力を深めさせる。												

(2) 算数科の検証授業

読解力を向上させるためには、全教育活動を通して行っていく必要がある。そこで、小学校算数科でも検証授業を行った。

ア 検証授業（小学校第1学年算数科）

(7) 学習計画

【単元名】「よみとるさんすう（1）」	
【本時の目標】 ○ 文章から、必要な情報を取り出し、問題を解くことができる。	
【読解力向上の取組】	
読解のプロセス	「読解力」の育成に必要な学習活動
情報の取り出し	○ 文章を読んで絵に表す。 ○ 「わかっていること・尋ねていること・答えの単位」にアンダーラインを引く。
解釈	○ 問題解決に向けて、文章から必要なものを選択する。 ○ たし算やひき算に必要な言葉を見つけて立式する。
熟考・評価	○ 自分の考えと他の考えを比べて考える。
表現 コミュニケーション	○ 自分の考えを相手に分かるように説明する。 ○ 学習を振り返り、分かったことや思ったことを話す。
【指導過程】（1時間）主な学習活動	
	言語活動の充実及び教師の支援
つかむ	1 本時の学習について話し合い、めあてを確認する。 本時のめあて たずねていることに、ただしくこたえよう。
見通す	2 学習の進め方について確認する。 問題解決の見通しをもたせる ○ 「ももこさんの日記」から情報を取り出し、それを簡単な絵に表して、情報の整理をしてから問題を解くことを確認させる。
調べる	3 問題1を全員で確認しながら解く。 既習事項を活用する ○ 必要な情報にアンダーラインを引き、それを抜き書きすることで、必要な情報をまとめさせ、問題を解かせる。 ○ グループや全体での話し合いでは、自分の考えと他の人の考えを比べさせる。
深める	4 問題2を解く。 ○ 自力解決→グループでの話し合い→全体での話し合い 5 練習問題を解く。
まとめる	6 本時の学習をまとめる。 ひつような すうじを えらんで、しきをつくる。 本時学習を確かにする ○ 学習を振り返り、分かったことや思ったことを発表させることで、何が分かったのかをより意識させる。

(イ) 授業の考察

a 問題を理解させ、問題から情報を取り出させる工夫

問題を解くのに必要な情報がなかったことで、知りたい情報は何かを意識させることになり、児童の興味・関心を高めることができた。また、「わかっていること・尋ねていること・答えの単位」にアンダーラインを引かせることで、立式への見通しをもたせることにつながった。

b 取り出した情報をもとに問題解決の見通しをもたせる工夫

文章の内容を簡単な絵に表させることで、文章読解が苦手な児童も理解を深めることができた。さらに、たし算やひき算につながる言葉を書き出させることで立式につなげることができた。

c 既習事項を根拠に意味を明らかにしながら説明させる工夫

自力解決に必要な情報をまとめさせて問題を解き、それをグループや全体で場で説明させたことで、自分の考えと他の人の考えを比べさせることができた。本単元の学習前は、意見発表の場になると沈黙してしまう児童が2名いたが、本単元ではグループでの話し合いを取り入れたことにより、全員の児童が自分の考えを発表することができていた。

【グループでの発表の様子】



d 本時学習を根拠にして自分の考えを表現させる工夫

必要な数字を取り出した箇所やたし算やひき算の根拠となる言葉を言わせることで、思考の段階を振り返らせることができた。

VII 成果と課題

1 研究の成果

- えびの市立小中学校の児童生徒の実態を踏まえ、読解力育成を目指した問題解決的な学習指導法を工夫改善したことで、問題の意味や意図を理解し、知識・技能を活用しながら問題を解決することができるようになってきた。また、言語活動の充実を図ることで、自分の考えをうまく表現できる児童生徒が増えてきた。
- 小中学校の系統性を生かした読解力向上における指導の在り方について明らかにすることができた。
- 本研究で取り組んできた読解のプロセスは、国語科だけでなく、他教科においても適応できるとともに、読解力向上に有効であることが明らかになった。

2 今後の課題

- 読解力を育成する学習指導法の研究は、小中一貫教育の観点で、全教科・全領域で有効であるかを検証することが必要である。
- えびの市教育研究センターで研究実践してきたことを、各学校において検証する機会を研究員が中心となって計画的に設定することが大切である。
- 学習意欲をさらに高める言語活動の在り方や、学習指導過程の各段階におけるより有効な手立てについて焦点化し、検証する必要がある。

○ 引用・参考文献

小学校学習指導要領解説 国語編	平成20年8月	文部科学省
中学校学習指導要領解説 国語編	平成20年9月	文部科学省
新学習指導要領ガイドブック		宮崎県教育委員会

○ 研究同人

所 長	萩原 和範 (えびの市教育委員会 教育長)	研 究 員	白水垂利沙 (えびの市立飯野小学校 教諭)
主 幹	佐々木浩己 (えびの市教育委員会 主幹)	研 究 員	中山 寛子 (えびの市立上江小学校 教諭)
指導主事	麦田 哲之 (えびの市教育委員会 指導主事)	研 究 員	足立 文枝 (えびの市立飯野中学校 教諭)
主 任	唐仁原幸吉 (えびの市立岡元小学校 教頭)	研 究 員	武田 和子 (えびの市立上江中学校 教諭)
班長(理論)	東木場信貴 (えびの市立加吹藤小学校 教諭)	研 究 員	松下 良子 (えびの市立加吹藤中学校 教諭)
班長(実践)	中島 里佳 (えびの市立真幸小学校 教諭)	研 究 員	橋本 律子 (えびの市立真幸中学校 教諭)